

今年も塾長が書きました!

社会

大問構成は昨年度本試と同じだが、1点が大問6から5へ移された。
 大問1は千葉県関連。設問の意図や資料を読み取る必要があり、丁寧に解く必要があった。
 大問2は日本地理。地形図とハザードマップを比較して答える問題など工夫されている。
 大問3は世界地理。選択問題は平易だが、(5)で記述問題が出題されている。
 大問4は江戸時代以前の歴史。(6)で築山某座の内容を説明させる記述問題が出題された。年代整理問題は平易だ。
 大問5は明治時代以降の

資料の読み取り力が鍵

歴史。1940年日独伊三国同盟成立の年であることを知ってれば平易だが、それを読み落とした受験生はとまどったのではないかと。
 大問6は、公民の経済分野。資料・レポートの読み取りなど。
 大問7は政治分野。選挙裁判所、直接請求権などが出題されている。
 大問8は、国際分野。マインクレージットや電源構成など、現代の課題についての問題であった。
 全体として、資料・文章の読み取り力が重要で、用語の暗記だけでは難しい。日ごろから新聞やニュースなどに接する姿勢が大切だ。
 平均点は昨年度よりやや下がるのではないかと。
 (金坂 嘉一)

理科

例年通り大問9題構成で、物理、化学、地学、生物から均等に、また履修学年もまんべんなく出題されている。
 大問1は小問集合で出題形式、配点も昨年度本試と同様である。これまで出題されたことなかった「放射線」からも出題されている。
 大問2は無脊椎動物を中心とした問題で易しい問題だ。
 大問3は、光の屈折についての問題で、光の通り道を示す問題もある。
 大問4は、空気中の水蒸気に関する問題。水蒸気量を表す棒グラフを描かせる

出題範囲まんべんなく

問題もあった。
 大問5は、蒸留について。(4)では質量パーセント濃度から質量を求める計算問題が出題された。
 大問6は、太陽の日周運動について、光電池パネルの角度など工夫した形式である。
 大問7は、イオン化傾向とタンニル電池について出題されている。イオンについての基本的な知識があれば容易だったであろう。
 大問8は蒸散について、気孔を塗りがず問題と簡単な計算問題が出題されている。
 大問9は力学的エネルギーについてである。作図とグラフが昨年度より一題増えたが、基本的な問題であり、平均点は昨年度と同じ60点くらいだろう。
 (金坂 嘉一)

2025年度公立高校選抜試験 出題傾向

自分の考え整理し作文

国語

大問の問題構成は昨年度本試と同じだったが、小問数と配点が少し変わった。大問1は、聞き取りの問題。小問が一題減り、配点も二点減った。令和九年度から聞き取りテストがなくなる布石か。
 大問2は漢字の読み方で、大問3は漢字の書きである。比較的平易な問題である。大問4は説明的な文章の語を参考に作成された文章を

数学

と平行四辺形をからめた出題も昨年度と同様であった。(3)は双曲線もからみ受験生にとっては難しくなかったのではないかと。
 大問3は、平面図形。昨年度は三角形の合同と相似を使ったものだったが、今年度は三角形の相似と円の性質について出題された。どちらの中3後半に履修する内容なので、受験までの間にじっくり演習できたかに左右されそう。平均点は昨年度並みと予想される。
 (金坂 嘉一)

読み込む力試す問題も

英語

大問の問題構成や配点は昨年度本試と同じであった。大問1〜4はリスニングテスト。昨年度から単語を書く問題がなくなっている。
 大問5は文法問題で、二題が単語の語系変換、三題が並び替えである(これも昨年度から四コマではなくなっている)。大問6は英作文。これも昨年度から四コマではなくなっている。大問7は、会話文で、空欄に合う文章を選ぶ問題。英文の量や難易度も昨年度とほぼ同じであるが、大問8の英単語が少し難しいかもしれない。
 リスニングと長文が多い問題なので、文法を中心とした勉強法では歯が立たない。日ごろから教科書以外の長文にも接していろいろな文章に慣れておくことが必要だろう。一つ一つの英文は中3の教科書と同じレベルなので、文の構造を考えて読み取る訓練が大切になってくると思われる。
 以上を踏まえて平均点は昨年度並みか、やや低くなるのではないかと。
 (金坂 嘉一)

リスニングと長文多め